

平成から令和へ、「不易」と「流行」の見極めは継続

五 霊 台

五霊中学校だより

令和元年度第一号

令和元年7月19日
文責 米村

歴史を超えた教育

の姿とは

平成三十一年四月三十日、平成も終わり、翌五月一日より令和がスタートしました。平成と令和を跨いだ一学期が終わります。改元の影響で十連休が生じ、令和最初の夏休みは、これまでと違い一週間短くなっています。八月二十六日より二学期が始まります。その点をしっかりと考慮し、計画的な生活を送りましょう。夏休みの宿題も各教科の総量を調整し、いつもより少なく設定してあります。元号は変わりましたが、五霊中に集う生徒、教職員は同じ集団。五霊中関係者であれば誰もが知っている校是「再び帰らぬ時なればこのひと時に命燃やさん。」のもと、日々時間の大切さを意識し、懸命な努力を積み重ねていく姿も変わるものではありません。西暦二〇〇〇年を前に、文部科学省が示した「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」には、「不易」「流行」の文字が明記されていました。「どんなに社会が変化しようとも、『時代を超えて変わらない価値のあるもの』が不易。



「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」は流行で、社会の変化に柔軟に対応することも教育の課題とされました。

令和となった今も、不易と流行の見極めは教育に必要なものです。夏休みの課題を減らすことや、ICT機器の導入によって授業のスタイルが変わることとは「流行」といえるでしょう。授業に臨む際の学ぶ側の意欲こそが教育にとつての最も重要な「不易」と考えます。江戸時代の各藩で開かれた藩校。(熊本藩は時習館)幕末に現れた私塾。(萩吉田松陰の松下村塾など)明治五年の学制により全国に作られた小学校。時代や目指す教育の目標は違っても、「学びたい」という意欲が大きな教育効果を生む原点であったこと変わりありません。では、何が学ぶ意欲を生み育てるのでしょう。幕末に活躍した歴史の有名人の伝記などからは、日本が欧米列強に支配されんとする危機感であったこともよく語られています。「立身出世のため」といわれた時代も長いようです。「学歴社会」は過去のものであると言われる様になった今、自らの興味・関心が最も学びの意欲につながるのではないのでしょうか。五霊中学校の生徒に身近な出来事を、下の記事で紹介しています。生徒の皆さんは、ぜひとも自身身の生き方・学び方のヒントとしてください。

～「世界の昆虫」と「西南戦争」が何故結びつくのか～ 三宅先生の学び方より学ぶ



三宅先生が本校着任以来毎年育てている大輪菊。写真は「男爵」という品種で花が終わった後の管理により長い期間受け継がれている。

五霊中正面玄関を飾る世界の昆虫標本。すべて三宅先生の手作り。昆虫は卵から育て、命が尽きたら標本となり形を残していく。触覚や足が欠損しても、三宅先生の特殊な技術で見た目ではわからないレベルの「義足」を与えられている。校長はこれらの標本一式を「三宅コレクション」と呼び各方面で自慢している。



五霊中学校主事として、校舎内外の環境保全や事務室での業務を中心に勤務して頂いている三宅先生ですが、二つの卓越した趣味をお持ちであることを何人の生徒が気づいているのでしょうか。一つ目は、世界や日本の昆虫を育て標本も残す偉業。各小学校や環境センターからの講師依頼も多く、多くの聴衆から高評を得ています。もう一つは、西南戦争の歴史を研究し、解説もこなしているエキスパート。田原坂資料館でのボランティアガイド経験も含め、本校三年生は総合的な学習の時間等で毎年学ばせて頂きます。

昆虫と西南戦争。中学校の教科で言えば理科と社会。一見違う分野で、三宅先生の多趣味といえるのですが、実は両者の関係は三宅先生作成の昆虫解説書を見れば学びの極意に気づくはず。解説書には昆虫の名前と生息地が地図とともに示されています。名前が生息地と一致しない矛盾点を指摘し、「自分で調べてみよう」となる意欲を掻き立てる仕掛けがなされています。名前に歴史上の人物が関わっている例も紹介され、昆虫が大好きな生徒が、地理や歴史の分野にまで興味を持つようになっていきます。西南戦争の研究においても、史実をもとに西郷隆盛や、宮崎八郎、植木町出身の広田尚らの生きざまをエピソードを交えながら興味深く紹介してくれます。どれも三宅先生にとつて興味の尽きない学びの対象なのだということ。詳しくはご本人まで。

裏面もご覧ください

薬物乱用防止教室 ☆ 依存症からの脱却

七月十七日、五霊中体育館で全校生徒を対象とした薬物乱用防止教室を開催しました。講師に山鹿中央病院に勤務、五霊中の学校薬剤師もお願ひしている舛田岳史先生をお招きしました。昨年も学校薬剤師として多数お世話になつてゐる舛田先生は、五霊中学校の卒業生です。生徒の皆さんにとつて、活躍中の先輩にもなります。

今回、講話の中心となつたのは薬物の中でもゲートウェイドラッグと位置付けられてゐるたばこの害についてでした。下の表に示すように、ノンアルコールビール等の味に慣れると次の欲望として酒やタバコを求めるとされてゐます。次が脳への刺激が更に高まる危険ドラッグ。そして依存度も高い麻薬・覚せい剤へと破滅の道を

薬物への入口

1. ノンアルコールビール
2. 酒・タバコ
3. 危険ドラッグ
4. 麻薬・覚せい剤

突き進むという事です。講話の中で紹介された日本と関係の深いアジアの一国タイの禁煙促進動画には効果があつたようです。タバコを吸つてゐる大人に、子どもたちが自らタバコを吸うための火をもらいに行きます。(演技でしょう)すると、大人はタバコは体に悪いから吸つてはいけなないと子どもを注意します。子どもは準備してゐた手紙を渡します。内容は、注意してくれたことへの感謝と、自身の健康を大事にしてくださいといふもの。これで大人の禁煙のための相談が増したそうです。受動喫煙の害も説明がありました。自分や家族の健康を守るために、五霊中の生徒が禁煙を提案したら、周囲の大人はその気持ちを理解して欲しいと感じました。禁煙による生命延長効果はあると舛田先生は語つておられます。禁煙は早ければ早いほど効果は高まるそうです。

熊本県の梅雨明けはいつ？ ～気象の激しい変化に注意～

今年の熊本市は、梅雨明けを待たずに夏休みを迎えるようです。台風5号の今後にも注意が必要のようです。台風の北上が梅雨前線を押し上げ、熊本を含む九州北部地方の梅雨明けが来週にも予報されてゐます。

今年梅雨入りが遅く、今まで一番遅い記録となりました。梅雨入りしてからは雨が続き、九州南部では大きな被害も出ているようです。子どもたちの安全を優先し、七月三日は臨時休業としました。中体連大会も、二度にわたつて全種目延期。スケジュールが大きく変わりました。「備えあれば憂いなし。」今のところ五霊中校区内に

おける大雨の被害は報告を受けていません。今後は、夏休みを含めて、台風の備えをする必要があります。部活動等で登下校する際など、気象状況に危険を感じたら、自らの判断で「欠席」等の判断を下してください。学校への情報提供もお願い致します。

関東以北は冷夏の予想に米の生産を心配されてゐるとか。首都圏の消費地では気温が上がらず、植木産のスイカにも影響してゐるそうです。七月三十一日19時半よりNHK全国放送『ガッテン!』にて、五霊中野球部が植木スイカを食べるシーン放送予定なので、カットされないことを祈ります。

五霊中ホームページをチェックしましょう



<http://www.kumamoto-mm.ed.jp/school/j/goryoujh/>

昨年度よりリニューアルし、日々更新を続けておかげさまで一万回を超える閲覧数を記録しています。すでにご覧いただいているかと思いますが、まだの方はぜひご利用ください。安心・安全メールと併用することで、スピーディな情報入手することが可能です。先日まで開催されてゐた熊本市中体連の結果等もお知らせしてゐます。なお、個人情報等の配慮から、生徒の氏名等は掲載していません。



蒸し暑い中、生徒たちも真剣に講話に取り組みました。保健委員長の「自分の健康は自分で守る」とあつたお礼の言葉にも講話の成果が現れていました。

最後までご覧頂きありがとうございました。